

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191000062		
法人名	医療法人社団 福寿会		
事業所名	コスモス苑「おおぞら」		
所在地	岐阜県郡上市白鳥町白鳥429-6		
自己評価作成日	令和2年11月25日	評価結果市町村受理日	令和3年1月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kairokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2191000062-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	令和2年12月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

町の中心部に近い住宅街にある環境で、地域の人々と交流を深めながら、地域の一員としての意識を持ち、日々の生活の中で生きがいを持っていただくことで楽しく、心穏やかに過ごしていただくような空間を提供できるよう取り組んでいる。同法人のグループホーム、小規模多機能型居宅介護、特定施設入居者生活介護、短期入所生活介護、居宅支援事業所と連携を取りながら、利用者様やご家族様の希望に沿った総合的な支援に取り組んでいる。また、母体が病院であることから、24時間医療と連携した支援を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

今年度は、新型コロナウイルス感染症予防対策として、敷地内にあるカフェにて、外部評価訪問調査を行う事となった。法人は、内科・小児科など総合的な医療と共に、様々な介護サービスを提供する医療法人社団である。職員は、利用者が住み慣れた地域で、安心した生活を送れるよう、常に利用者の気持ちに向き合い、寄り添いながら24時間365日、切れ目のない暮らしを支えている。管理者と職員は、新型コロナウイルス感染症予防対策に努めながら、様々な制限がある中でも工夫を重ね、ガラス越しの面会や、利用者が楽しめるよう「敬老会」や「誕生会」を開催するなど、利用者の笑顔と家族の安心につなげている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	皆が見やすい所に掲示しており、実践につなげるよう日々、努力している。	法人理念の「見守ります・見逃しません・笑顔を引き出します」を掲げ、目に付きやすい場所に掲示し、日々、確認している。ミーティング等で振り返りながら共有し、「ここが一番」と利用者の声が聴けるよう支援に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年はコロナウイルスの影響で交流は少なくなっているが、保育園の子どもたちが鼓隊やお遊戯で来苑し、屋外で交流したり、外気浴や散歩のときに他施設の利用者や近所の住民との会話など可能な範囲での交流は持たれている。	母体法人の医院が直ぐそばにあり、地域住民との関わりも多い。また、今までは、様々な行事を苑の庭で開催していたが、今年は感染予防対策として、恒例の炊き出し行事等も中止している。保育園児とは、屋外で交流することができている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方より相談があれば説明できるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在はコロナウイルスの影響で運営推進会議は開催できていないが、以前はできていた。	年4回、運営推進会議を開催し、地域住民、民生委員、家族、行政等の参加を得て、現状報告や行事予定、ヒヤリハット報告について意見交換を行っていたが、今年度は、コロナ禍にある事から、書面会議に代えている。感染症対策についても検討し、併せて利用者が不安にならずに暮らせる支援方法を話し合っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	相談員の方の訪問や認定調査、区分変更等で連携をとれている。また、他の事業所との連携もできており、紹介をしたり、受けつきの繰り返してある。	市担当者とは、メールや電話で情報交換や相談をしながら、指導・助言を得ている。高齢化が進む地域の現状や課題についても、意見交換を行っている。現在、新型コロナ感染予防対策についての情報が逐次メール配信され、確認しながら運営に活かしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は理解しているが、やむを得ない時は、ご家族の了承を得て必要最低限行い、記録を残している。行動制限のないよう、中庭へ自由に行けるようになっている。	身体拘束委員会を定期的に開催している。現在、止むを得ず拘束が必要な利用者があるが、家族の同意を得て、一日も早く拘束が解除できるよう、話し合いを重ね支援に取り組んでいる。また、現在の拘束事例の経験が、今後の拘束ゼロのケアに活かせるよう最善を尽くしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関する研修に参加した職員の報告やケア会議で勉強会を行い、虐待防止に努めている。		

岐阜県 コスモス苑「おおぞら」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	この施設には利用されている方はいないが、他棟で過去に利用された方がみえたので、今後このような知識が必要になってくるので学ぶ機会があっても良い。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	解約に関し、契約担当者が利用者及び家族に納得のいくよう説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様の声に耳を傾け、日常会話の中からくみとるようにしている。運営に関する会議が定期的に行われており、反映されている。	事業所の取り組みや利用者の暮らしぶりが分かるよう、家族に写真付きの「おおぞら便り」を配布し、担当者の手書きメッセージも添えている。家族から食事内容が知りたいと希望があり、隔月に食事便りも送付している。家族の要望や意見には真摯に対応し、信頼関係の構築に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	苑全体の責任者会議でも検討し、月1回のケア会議でも話し合う機会を設けている。	医師である代表が往診で来所することが多い。管理者もシフトに入り、職員の意見や要望を聞き、申し送りノートやミーティング等で話し合うなど、風通しの良い職場環境である。職員も地域の住民でもあり、周囲の声を聞きながら、地域性を活かした利用者サービスにつなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	世代の差はあっても、研修等によって働く意欲の向上につながっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりに対して、研修や資格取得の情報を常に提供し、スキルアップできるようサポートされている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	以前は外部の研修や講演会等があったが、現在はコロナウイルスの影響で少なくなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用される以前の生活を知り、また利用者様、ご家族様の要望をお聞きし、信頼関係を築くよう努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所じはご家族に訪問していただき、お互いに信頼関係ができるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様、ご家族の意見を尊重し、必要な支援を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人様の自主性を尊重しながら、人生の先輩として尊敬しながら接し、教えてもらっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との協力でケアできることもあり、連絡を取り合って支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今年はコロナウイルスの影響で面会制限はあったが、状況によっては対応できるようにしている。	今までは、家族や知人が隣接の医院への受診時に、気軽にホームに立ち寄っていた。現在は、コロナ禍にある為、面会制限も止むを得ないが、状況に応じて適切に対応している。また、隣接する同法人事業所の利用者とも、感染対策に努めながら、関係継続に努めている。馴染みの場所へのドライブは、現在、自粛中である。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が良好な関係で生活できるように、職員が間に入って声掛けしている。フロアでレクリエーション等を行い、利用者同士が楽しく過ごしていただけるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等で退所された利用者様、ご家族には声を掛け、関係が切れないように相談、支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で、本人の思いや意向を確認し、ご家族の希望をくみとり、本人に合った支援に努めている。	契約時のアセスメントを参考に、日常生活での会話や表情から、興味がありそうな話題で声掛けし、思いや言葉を引き出している。利用者が本音で語れるよう、時間をかけて穏やかに傾聴するよう心がけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や馴染みの暮らし方や、生活環境の把握はできている。入所後は、その人に合ったサービス提供ができるように心がけている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルや記録に目を通し、職員間で変化を見逃さないように気を配っている。また、一人ひとりの能力に合った対応をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケア会議にて課題のある利用者様を提案し、意見交換し、生活の中での支援見直し等を考えていく。	ケアマネジャーは、事前に家族の意見や希望を把握し、介護記録の内容や、担当職員と医師の意見等を取り入れながら、介護計画を作成している。その後、家族に説明し意見交換を行っている。利用者の状態やニーズに基づいて、柔軟に見直しを行っている。	介護計画は、利用者の日々の生活支援の基になるものである。家族に計画内容を理解してもらう為にも、支援者の一員として参加できるように、介護計画作成会議の日程工夫に期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日頃の様子の変化等を必ずケースに記録し、連絡ノートを活用し、職員が情報共有できるようにして、ケアの均一化ができるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者一人ひとりに合ったサービスを行えるよう支援している。		

岐阜県 コスモス苑「おおぞら」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在はコロナウイルスの影響でできていないが、以前はボランティアの方の受け入れをし、利用者様に楽しんでいただいた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診の希望があれば家族に伝え、医師の指示に従っている。主治医が近いので連携はとりやすい。	契約時に、かかりつけ医についての事業所の方針を説明し、利用者、家族が選択をしている。母体法人の医院がすぐそばにあり、ほぼ全員かかりつけ医としている。日常的に医師が訪問しており、利用者と家族の安心につながっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の生活の中で利用者の体調の変化は看護師又は医師に報告、相談し対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には基本情報、医療に関する情報を提供している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族とは重度化した時にも、すぐに連絡して支援方法を相談している。又、経過観察を行い、体調の変化があれば家族に連絡をする等対応している。	入居時に、事業所の指針を説明し同意を得ている。状態変化があった場合、早い段階で家族を含めて、関係者が十分に話し合い、医師の助言も得ながら方針を決定している。職員は日々看取りケアについて研修で学び、家族の希望を受け止めながら、より良い支援が行えるよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルで対応できるよう心掛けているが、状況によっては医師や看護師の指示をもらい対応している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を自治会の方と共に定期的に実施し、利用者様にも参加していただいている。職員全員が避難経路を確認している。	法人全体及びグループホーム独自の防災訓練を行っている。近隣の協力体制も整い、年1回地域住民と共に法人の庭で防災訓練を実施している。また、ハザードマップを確認しながら、地震、水害時における対策と共に、防災知識を学ぶ研修も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳、プライバシーに配慮した言葉かけの対応を意識している。	職員は、利用者が「今が一番幸せ」と喜び、笑顔が自然に出るよう、常に寄り添う支援に努めている。利用者一人ひとりの人格を尊重することを基本に、排泄・入浴・居室出入りなどの場面では、羞恥心とプライバシーに配慮するよう心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の言葉に耳を傾け、話を聞き、自己決定できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様一人ひとりを尊重し、希望を聞きながら、日々の生活を過ごしていただけるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみを心がけ、その方の好みや希望に沿って支援している。お化粧される方は補助を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は個人に合った食事を提供し、テーブル拭きや湯呑み集め等を手伝ってもらっている。又、おやつ作り等で職員と利用者が一緒に行っている。	法人からの食材を利用し、出来るだけ家庭的で利用者世代に馴染みのある献立で提供している。地域住民からの差し入れもあり、利用者主体で干し柿作りをしたり、たこ焼き作り、お月見団子作りなども楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者に合わせた食事量や水分量、体調等に合わせた食事提供を行っている。食事量のチェックをもとに栄養士から指導を受けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床後や毎食後に各自の口腔ケアをいただいている。歯に異常があれば、すぐに歯科で診てもらっている。		

岐阜県 コスモス苑「おおぞら」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりに合った排泄介助、パット交換、トイレの声掛けを行い記録を共有し、自立にむけた支援を行っている。	職員は、利用者の排泄パターンを把握し、声掛けと誘導でトイレでの排泄が習慣になるよう支援している。布パンツの利用者もあり、継続を支援している。排泄用品が、利用者の状態に適切であるかを検討し、自立に向けた支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者一人ひとりの排泄パターンを記録によって把握しており、水分を多く摂ったり、身体を動かすレクリエーションを行っているが、便秘になっている場合は、薬の使用など個々に応じた支援をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	全体の入浴日は決めてあるが、一人ひとりの状態、希望に合わせて入浴できるようにしている。入浴日の変更などの対応もしている。	入浴は週2回であるが、柔軟に対応している。個浴でゆっくりと入浴を楽しみたい人、職員と会話をしながら入浴したい人などがあり、希望に応じて支援をしている。立位姿勢が無理な場合は機械浴、リフト浴で安心・安全な入浴支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	気持ちよく眠られるよう、温度調整、寝具や気温に気を付けている。又、天気の良い日は外気浴をしていただき、安眠につながるよう心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬箱を用意し、服薬のチェック表を利用している。看護師と連携し、状況の変化に対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの得意なことや好きな事、できることやってもらえるよう支援している。また、楽しみを増やしていただくようレクリエーションもいろいろと行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日、体調に合わせて外気浴や散歩に行けるよう支援している。コロナウイルスの影響で家族との外出は現在行っていない。	現在は、新型コロナ感染予防対策として、遠くへの外出や家族との外出も自粛している。利用者は、法人の広い庭を散歩したり、庭の地蔵参りする等、外気に触れている。地域の高齢者も参拝に訪れ、自然な交流機会となっている。	

岐阜県 コスモス苑「おおぞら」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	トラブル防止のため、預かり金を事務所金庫にて保管している。以前は利用者様と一緒に買い物支援できていたが、今年はコロナウイルスの影響できていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個人の携帯電話や事務所の電話等、その人に合った形で支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日々の清掃や季節の飾りつけ、行事の写真の展示等を行い、気持ちよく過ごしていただけるよう努めている。苑庭にも季節の花や野菜が植えてある。	今年度は、感染予防対策として、リビングの窓からの見学とし、詳細は、写真や動画で確認することとなった。リビングから、地域住民の様子や広い庭が見え、庭での話し声も聞こえる環境である。共用空間は広く、福祉用具が必要な利用者も安心して往来ができ、季節ごとに作る作品や花を飾っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	中庭に椅子があり、玄関、フロアにも椅子やソファがあり、自分の好みの場所に座れるようになっている。一人になりたい時は居室で休まれたり、思い思いの時間を過ごしていただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していたものや、テレビ、写真、思い出の品等、自由飾っていただくなどし、居心地よく過ごせるよう工夫している。	居室は、自室とすぐ分かる表札が掛けてある。電動ベッド、空気清浄機能付きエアコン、整理タンスが設置されている。馴染みの日用品を持ち込み、家族の写真、趣味の作品を飾って自分らしい居室にしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に自立した生活を送っていただけるよう、利用者様の居室が分かりやすいように、手すりをつけたり、トイレ表示を分かりやすくしたり、棚や引き出し、押し車や車椅子の置き場所にも配慮している。		